

(12) へき地・複式教育の充実

小規模校・少人数学級の特性を生かし、一人一人のこどもの個性の伸長と資質・能力の育成を図るとともに、社会性の育成に努める。

実践事項

★は、特に力点を置いて取り組んでいただきたい実践事項

1 へき地の三特性（へき地性、小規模性、複式形態）を積極的に生かす教育活動の推進

- ・地域の人的資源、物的資源や自然環境を生かし、地域と連携して教育活動を推進する。
- ・小規模な教職員組織を生かし、教職員個々の役割を明確にして、全教職員が一体となった指導体制を構築する。
- ・小規模校において、児童生徒が互いのよさや努力を認め合い励まし合う機会、全員が活躍する場を意図的に設定し、望ましい人間関係の構築に努める。
- ・複式学級の特性を生かした学習指導を行うため、「へき地・複式教育ハンドブック」や先進校の研究成果などの資料を活用したり、近隣の学校の授業参観をしたり、校内外での研修の充実を図る。
- ・多様な価値観にふれるために、遠隔教育や様々な学習形態を取り入れるなどの工夫をする。

※遠隔教育については、「(10) 情報化に対応する教育の推進 実践事項 3」参照

※「様々な学習形態」とは…

- ・合同学習…校内において3個学年以上の児童生徒が合同で行う学習活動
- ・集合学習…近隣の2校以上の児童生徒が1か所に集まって行う学習活動
- ・交流学习…規模や生活環境の異なる学校または異校種の学校が互いに交流して行う学習活動

2 複式学級における実情に即した年間指導計画の作成

★教科の特性（系統性や順次性など）や児童生徒の実態（学年差や個人差など）を考慮した上で、複式指導の類型を踏まえた年間指導計画を作成する。

- ・学年別指導において、指導の効果を高められるよう、2つの学年の学習内容の関連を考慮し、単元の配列を工夫したり単元全体をずらしたりするなどして年間指導計画を作成する。
- ・同単元指導において、同程度又は異程度の目標や内容を設定し、児童生徒の実態に応じた指導を行い、適切に評価する。
- ・合同学習において、それぞれの学年の目標を設定し、適切に評価する。

※複式指導の類型（管内で行われている主な類型）

①学年別指導…各学年の学習内容を別々に指導する形態

「同教科異単元指導」…同教科において、学年で異なる単元（題材）で指導する方法

②同単元指導…2個学年を同じ単元（題材）で指導する形態

「同内容指導」…同教科において、同じ教材で同じ内容を単式形態で指導する方法

3 へき地学校・複式学級における「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業づくり

- ・児童生徒が自己調整しながら学習できるよう、ICT等を効果的に活用し、児童生徒が自分の学習の状況を把握・分析したり、自分に合った方法を選んだりする場を設定する。
- ・学年別指導において、直接指導、間接指導及び同時間接指導の特長を理解し、学習活動が効果的に行われるように「わたり」と「ずらし」を工夫する。
- ・間接指導において、児童生徒が自分たちの力で学習を進めたり、考えを深め合ったりすることができるよう、ガイド学習の充実を図る。

※「主体的・対話的で深い学び」の視点については、「(1) 授業の充実 実践事項 3 (2)」参照

※ガイド学習…間接指導の効率化を図るために考えられた小集団学習の一形態で、児童生徒の集団から選ばれたガイド（案内役）が教師の指導の下に立てた学習進行計画によってリードしながら共同で学習する方法